

平成28年度
全国マンツーマンディレクター会議



①マンツーマン推進の目的について



発育・発達段階に応じた適切な指導で選手をより高いレベルへ導く

子どもたちがよりバスケットボールを楽しみ、打ち込める環境を作る

日本全体の競技力を向上させる



「プレイヤーズファースト」を尊重し、
目先の勝利に捉われない長期的視点に立った指導の推進

- ・ 1対1でバスケットボールを楽しむ。
- ・ 個人のスキルアップを図る。
- ・ 状況判断力、理解力を高める。
- ・ 想像力を養う。



- ・ 強力な1対1の突破力、得点力のある選手が育つ。
- ・ ディフェンスで相手を止められる選手が育つ。
- ・ 高い運動能力を持ち、オールラウンドに活躍できる選手が育つ。
- ・ マンツーマンディフェンスの強化により、将来的なゾーンディフェンスの活用を含めた総合的なディフェンス力の強化が実現する。



- ・ バスケットボールを楽しむ選手が増える。
- ・ 世界で活躍できる選手が増える。
- ・ 強い日本代表チームができる。

- ・世界の強豪国では16歳以下のゾーンディフェンスを禁止しており、国際バスケットボール連盟（FIBA）もミニバスでは禁止している。
- ・日本では、ミニ（U-12）のチームの多くがゾーンディフェンスを導入しており、中学校（U-15）のチームの多くがゾーンディフェンスを中心に試合を組み立てている。
- ・15歳まではコーディネーショントレーニングや基礎的なスキルを学ぶべき年代であるが、ゾーンディフェンスというシステムを主に指導されるため、オフェンス、ディフェンスの両面において1対1の対応力が不足している。

- 小学生、中学生を対象とした施策であるため「指導者のみならず、保護者への理解」が必要であること
- 成長段階にある子どもたちが対象になることから、「体力や技術不足により起こる違反行為」については、配慮が必要であること



上記の2点については常に念頭において、
施策の実行に当たること

②マンツーマンディレクターの役割・推進体制について

マンツーマンディレクターについて①

マンツーマンディレクターの設置目的

- ・都道府県内においてマンツーマンの趣旨や導入目的を指導者および選手に浸透させ、子供たちのためにより良い競技環境を構築すること。
- ・日本全国において一貫した基準でのマンツーマンの推進を行うこと。

マンツーマンディレクターの資格要件

- ・バスケットボール競技特性を熟知し、以下の役割を担える者
- ・JBAコーチライセンス保有者（C級以上が望ましい）

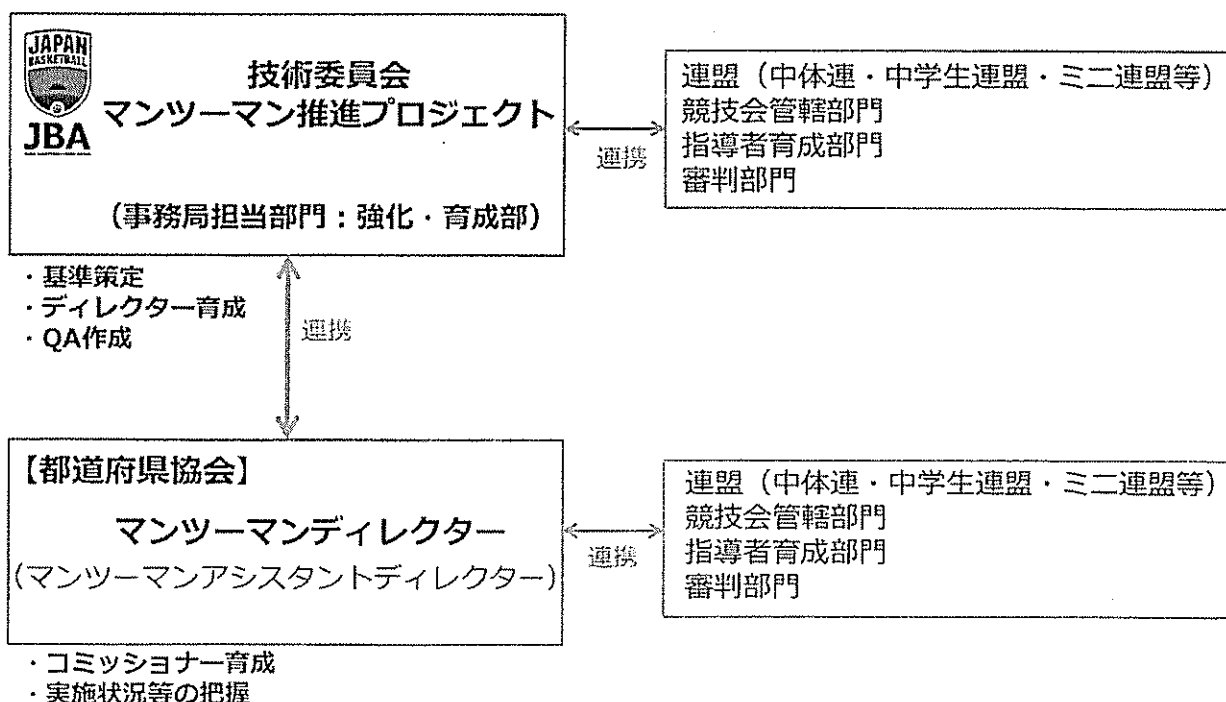
マンツーマンディレクターの主な役割

- ・都道府県協会において、マンツーマン推進の中心的役割を担う。
- ・都道府県内において、マンツーマン推進の趣旨、導入目的を指導者および選手等に伝達する。
- ・都道府県内において、マンツーマンを推進するための講習会を企画・立案し、指導者およびマンツーマンコミッショナーの育成・強化を図る。
- ・JBAおよび都道府県内の関連団体（中体連、中学生連盟、ミ二連盟等）と連携し、情報発信・収集を行うとともに、円滑なマンツーマンの推進を図る。
- ・（必要に応じて）アシスタントディレクターの養成を行う。

その他

- ・都道府県協会とJBAとの窓口を一本化するためにマンツーマンディレクターは各都道府県協会1名としますが、各協会においてディレクターの補佐を行うアシスタントディレクターを設置していただいても構いません（人数制限も行いません）。各都道府県の状況に応じて円滑な推進が可能な体制の構築をお願い致します。

マンツーマン推進体制について



※旧「マンツーマンディフェンス推進委員会」は、組織再編に伴い、技術委員会傘下のプロジェクトとして設置

●構成

プロジェクト長：山本明（技術委員会副委員長、ユース育成部会部会長）、
委員：小倉恭志・若山暁・松澤年紀（中学生連盟代表）、
永井一彦（日本中体連バスケットボール競技部長）、
坂本昌彦（ミニ連盟代表）、
村上佳司（ユース育成部会）、西垂水栄作（指導者養成部会）
蒲健一、飯塚剛（審判代表）
指導グループ：トーステン・ロイブル（男子ジュニア専任コーチ）
牧野広良（ユース育成部会WG・ミニ連普及技術委員長）
オブザーバー：田口智靖、青柳彰（中学生連盟）

●主な役割

プロジェクト：マンツーマンを全国に普及・推進するにあたっての
基準・ルール策定、全国における実施状況の確認、教材作成等

指導グループ：技術面に関する問合せの対応、ディレクター、コミッショナー
養成・指導への支援（派遣含む）等

●連絡窓口

JBA事務局 強化・育成部（担当：川島、関根）
TEL 03-4415-2020 FAX 03-4415-2020
MAIL u15mandf@basketball.or.jp

10

③実態調査結果について

資料3 参照

成果 (1) オフェンス

- ・ いい動きが見られるようになった
- ・ スクリーンを多用するようになった
- ・ スペーシングの取り方の理解、1対1の強化につながっている
- ・ 積極的に1対1をしようとするプレーへの意識変化あり

成果 (2) ディフェンス

- ・ 各指導者の勉強意欲が高まり、ディフェンスの意識が高まっている
- ・ 各チームの意識はかなり変わり、マンツーマンでしっかりディフェンスをするという徹底ができてきた

成果 (3) 運営

- ・ 明らかなゾーンディフェンスはなくなった
- ・ 大会中の全試合で1回も旗が上がらなかったチームを表彰しようとする動きあり
- ・ マンツーマンに全チームが取り組んでいる
- ・ 全チームのコーチが快く対応しゲーム中の修正ができる。
- ・ 「ペイントエリアで立っているだけのゾーン」「スローインで直ちにボールを奪うゾーンプレス」がなくなり選手個々の攻防が多く生まれ、ゲームの質は良くなった
- ・ 今まで見過ごされてきたビッグマンも頑張らせようとするチームが増えてきた
- ・ 大きな選手同士がオールコートで1対1を行う場面が増えた
- ・ ミニ・中学の間で県全体でマンツーマンを理解しようという連携あり

成果（4）指導者

- ・ マンツーマンをきちんと指導しよう、指導したいという気運は高まっている
- ・ 基礎技術に目を向ける指導者が増え、指導について学ぶ姿勢が向上した
- ・ 守り方攻め方をディスカッションする場面が増えた
- ・ 実施の意識は指導者始め選手にも確実に浸透してきている。今後も実施徹底を図っていきたい
- ・ 指導者はゾーン対策を考えなくて良くなり、個人技術向上のために時間を使える

課題（1）運営面

- ・ ルール策定
- ・ 組織化・予算
- ・ ミニ・中学・レフリー連携
- ・ 大会運営
- ・ 外部指導者・専門外顧問

課題（2）コミッショナー育成

- ・ 赤旗の対応
- ・ スケジュール
- ・ 現場の課題
- ・ ミニと中学の基準
- ・ コミッショナー育成方法論

課題 (3) ディフェンス

- ・ 現場の課題
- ・ ハーフコート
- ・ フルコート
- ・ 1～6年生混在
- ・ トラップの解釈

課題 (4) オフェンス

- ・ アイソレーション
 - －能力の高い選手に1対1をさせることの増加
- ・ オフェンス側の課題
 - －シュート力がない
 - －動かないオフェンスで守られる
 - －個々のスキルアップの前に戦術で解決しようとする

課題 (5) 指導者教育

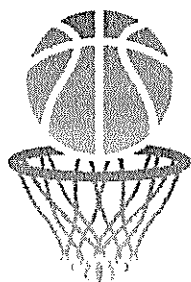
- ・ 目的意識の欠如
- ・ 規則の抜け道
- ・ 専門外顧問
- ・ 周知不足・理解不足
- ・ 勝利至上主義

☆ コミッショナーを増やせば
目的ではない...

マン/ーマを推進する

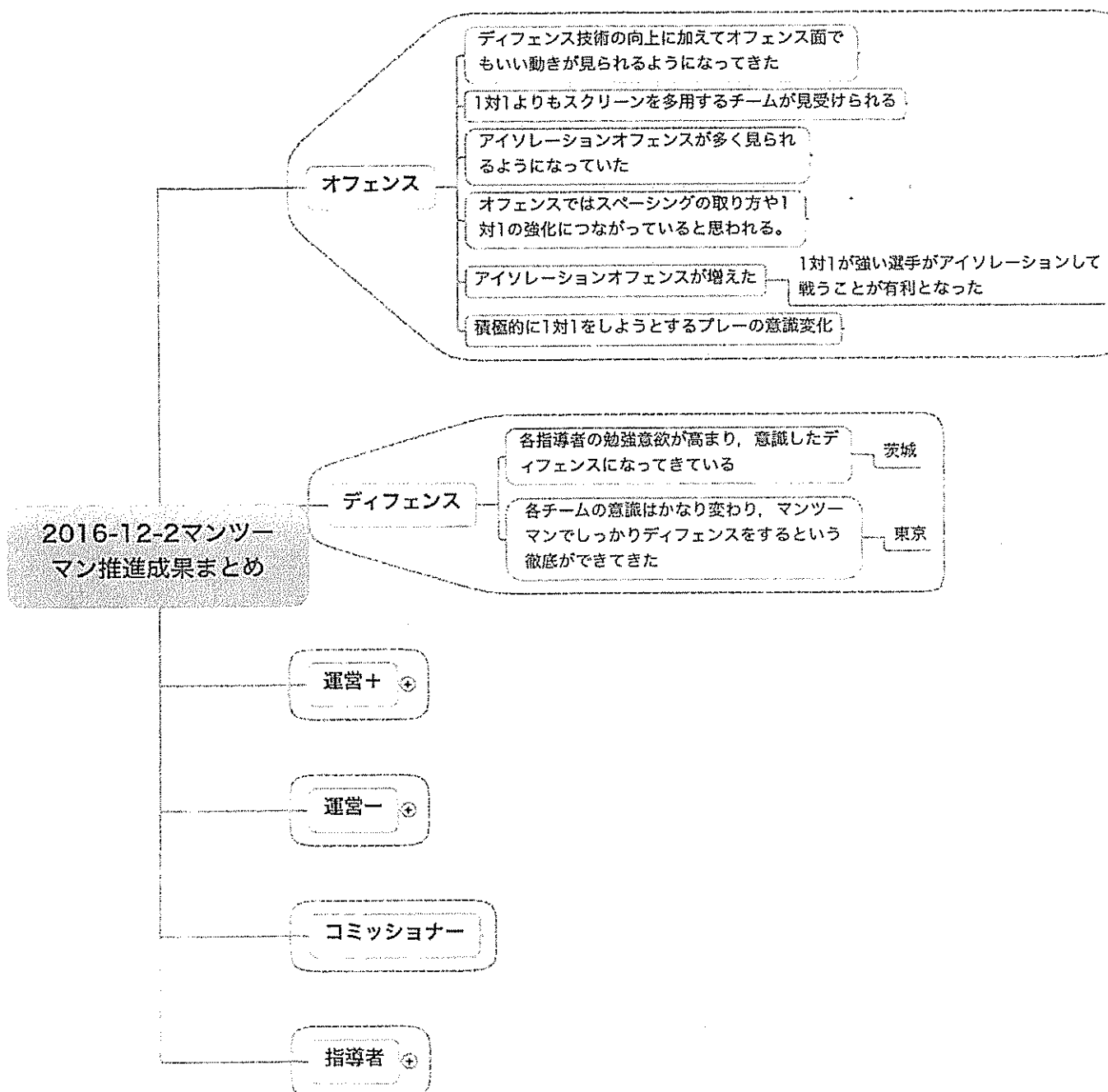
課題 (6) 保護者教育

- ・ 意識付け・理解を求める必要性



**バスケットボールで
日本を元気にします!**





2016-12-2マンツーマン推進成果まとめ

③ オフェンス

④ ディフェンス

運営+

明らかなゾーンディフェンスはなくなった

全試合で1試合も旗が掲がらなかったチームを表彰する案あり

マンツーマンについて全チームが取り組んでいる

宮崎

全チームのコーチが快く対応しゲーム中のディフェンスの修正ができる。よって引き締まったゲームになることが多い

沖縄

一部の指導者に理解されない現状はあるが、全体的にマンツーマンで守ろうとする姿勢が格段に良くなった

神奈川

「ペイントエリアで立っているだけのゾーン」や「スローインで直ちにダブルチームでボールを奪うゾーンプレス」がなくなり選手個々の攻防が多く生まれ、ゲームの質は良くなった

今まで見過ごされてきたビッグマンも頑張らせようというチームが増えてきた

東京

指導者の理解不足もあるが、少しずつ浸透してきている。

ミニでは低学年を除いてマンツーマンディフェンスの意識を持って取り組んでいる

中学では基準規則について理解し、推進しようとする意識は感じられる

群馬

大きな選手同士がオールコートで1対1を行う場面が増えた

ミニバスで身長高いプレイヤーがゾーンプレスの一番後ろを守るだけがなくなった

ミニ・中学の間で県全体でマンツーマンを理解しようという連携あり

岩手

運営ー

「マンツーマンをしっかりやろう」と言うよりも「基準規則の範囲内ならいいだろう」という意識のチームが出ている

オフボールのディフェンスはミドルラインを必ずまたがせよう

ルールすれすれをついたチームが出てきた

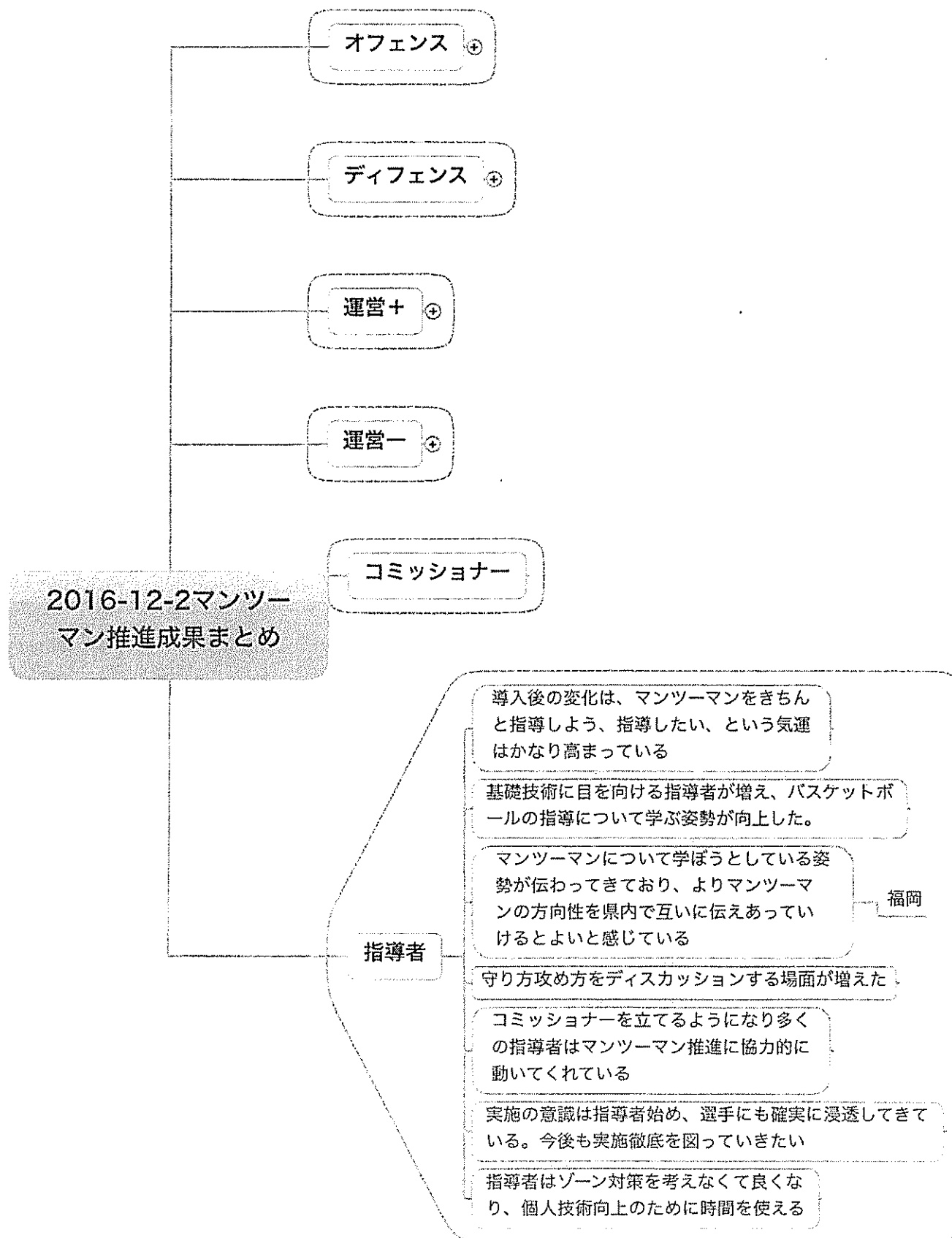
ディフェンスを一生懸命頑張りづらくなった

頑張ってボールを追いかけると注意される

マンツーマンの意識は高まってきているがオールコートマンツーマンの時にゾーンの的に守る場面が見られる

コミッショナー

⑤ 指導者



2016-12-2マンツーマン推進実証調査課題まとめ

運営

ルール策定

いつまでやるのか、東京オリンピックまでかという声がある

日本バスケットボール競技規則に記述して取り組むことはできないのか

ルールブックは必要。指導者は「書いていない」事を理由にグレーな部分を増やしてくる。指導者のあり方を指導しなければいけない。

ルールブックに書いていないことで罰則を与えるのが本当に正しいのか疑問。

基準規則の改正については、改正の意図(想定したシチュエーション)が分かると指導者に対して説明しやすい

地方ルールの一人歩き

ブロック内県での温度差

組織作りの課題、コミッショナー運営部など

組織化・予算

コミッショナーの経費や謝金はどこからも出せない

ブロック

県

コミッショナーを配置してもよいという通達＝勝手につけるという解釈のため費用が出せない

協会に予算がなく、会場費や役員費がない

県協会の理解の元、県ミニ選と中学校の連携をとりながら選手を育成する必要がある

ミニ中学レフリー選抜

審判との連携部分

ミニと中学のすりあわせについて差を感じている

例:ミニはバスケットの入り口としてやや厳しく実施、中学は選手の頑張りをある程度認めるなど

ミニで行っている解釈と中学の解釈が違うように思える

大会運営

県協会や中体連主催でない大会での実施が少ない

試合～審判～コミッショナー～試合と続いてしまう場合があり割り当てが難しい

多くの大会がチャンピオンシップであり、勝利しなければ次の大会に進めない場合が多い。勢いにこだわった指導になる。大会のあり方から考えるべき。

上位チームよりも下位チームの方が問題が多い

大会運営で人員が不足すること

コミッショナーを配置できるほどの人員が地方にはいない

地区は厳しい

代表決定戦のみおいている実情

チーム仲間とした場合チームスタッフ人員により難しい場合もある

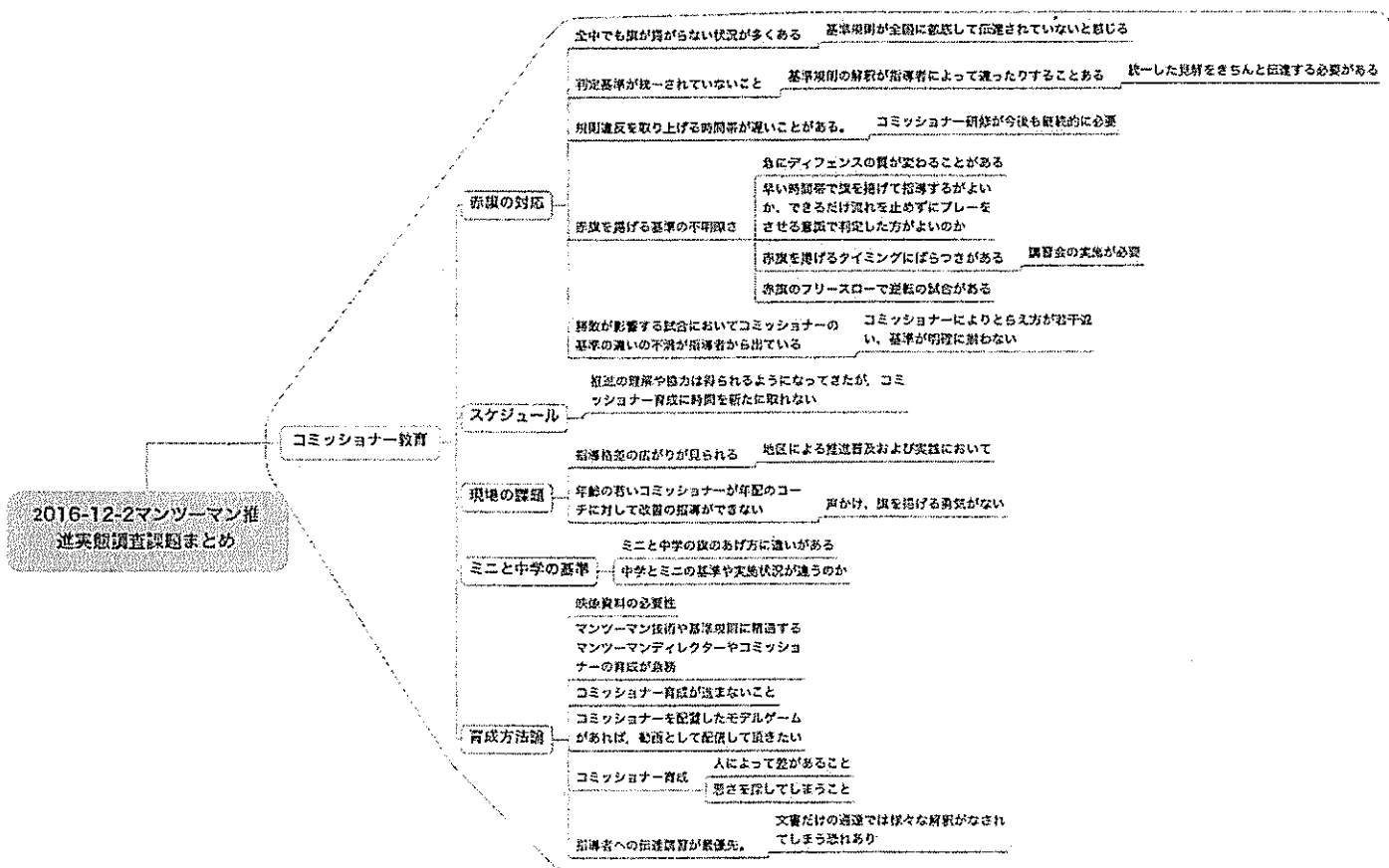
文句・クレームが増えている。対応が大変。

外部指導者

外部指導者の理解不足が多いように思われる

専門外の教職員に負ってもらっているチームへのケア

マンツーマンのことを理解できていない人が多く不安を感じていたり、理解することができない選手が不安になっていること



2016-12-2マンツーマン推
進実態調査課題まとめ

ディフェンス

トラップの解釈

トラップの質問が多い
どこまでが認められ、どうなったら違反なのか
トラップ終息の定義
ゾーンブレス的なディフェンスをするチームディフェンスの明確な違いをトラップのあり方を記載して示すべき
やみくもにトラップに移行とするが故に、間に合わず途中で止まってしまったりローテーションミスが起きている

1年～6年生混在

ミニバスは1～6年生が一緒にゲームを行うのでマッチアップに大きな差が生まれる場面もあり、別な課題も生じている
ミニでは経験の浅い子がマークマンを見失いヘルプポジションに行ってしまう状況が多く見られる

現場の課題

マンツーマン＝1対1＝ヘルプはダメという間違った認識が今後増加することを危惧している
どのようにマンツーマンディフェンスを行ったら違反にならないかという問合せが来る
基準規則がオフェンス側のプレーを予測してディフェンスを考えるプレーを制約している気がする
危険を感じて早めにヘルプにいけるようにポジションを取ることが基準規則違反になりがちだが、これを罰することはおかしいと感じている。
中学ではレベルが上がるとバスケットボールの理解力のある選手が罰せられる傾向にある
勝敗にこだわり、罰則がないからゾーンに近い守り方を選択する場合あり
完全にドライブ警戒のオフボールディフェンス
エース対策でヘルプだけ考えるポジション取り

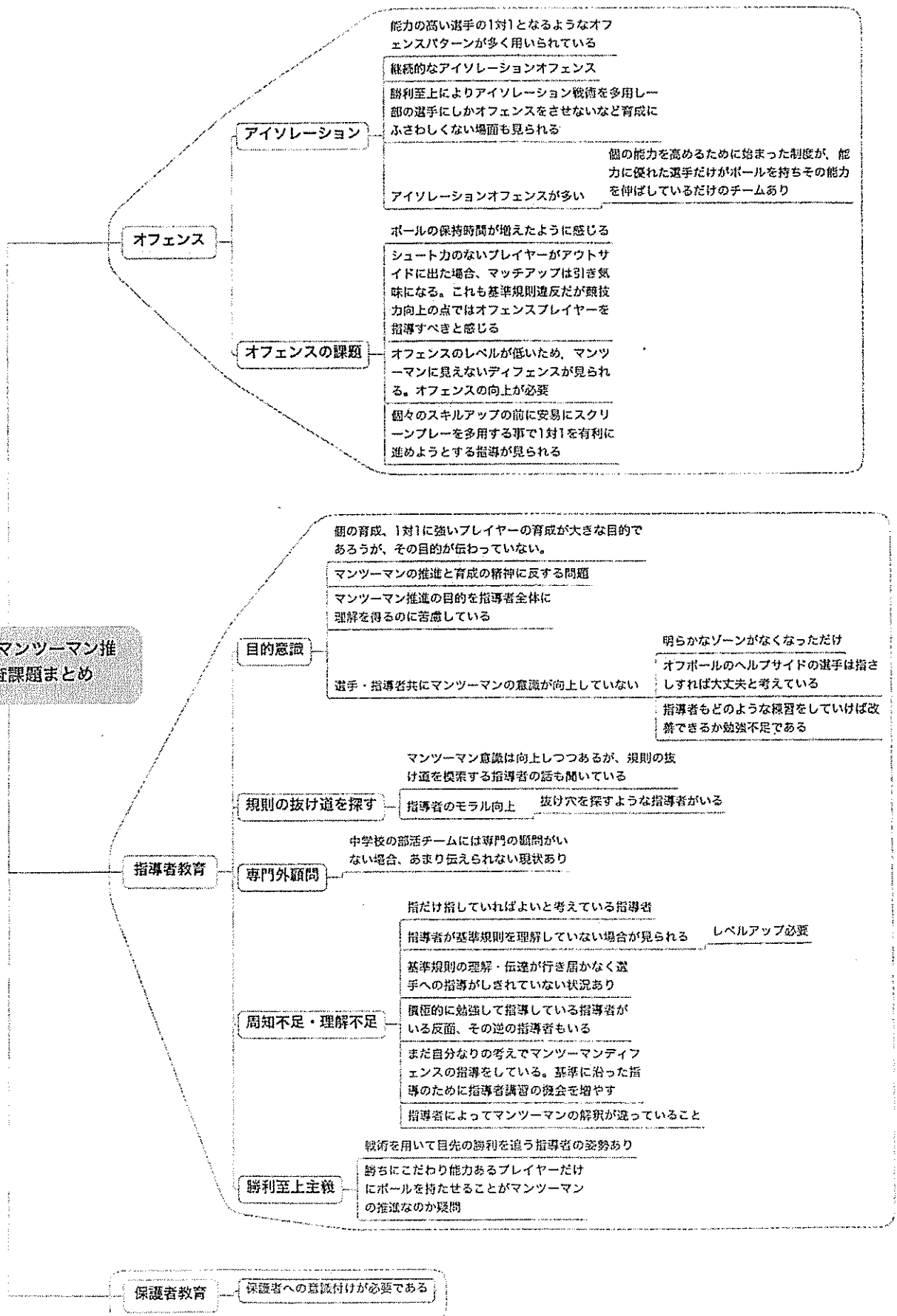
ハーフコート

ヘルプサイドから寄りすぎている場面がよく見られるが、ゾーンディフェンスなのかマンツーマンなのか曖昧である
動かないヘルプサイドのオフェンス
ボイスの普及が難しい
ゾーンより動かない指差し、首振りだけのマンツーマンディフェンスが見られる
オフボールでヘルプの意識が強く、ボールマンに近い位置取りをするチームが見られる
多く見られる問題場面は、マークマンを見失ってパスカットを狙うことに中止してしまうケース、
中学では首振りをなくして3線ポジションを取ることがなかなか徹底できていない
ノースクリーンの場面でマークマンを代わってしまうケース
2線の位置取りをどこまで認めるか
ハーフコート

フルコートブレス

オールコートのゾーンブレスは禁止する必要があるのではないか
激しいゲーム展開が少なくなった
これで競技力が上がるのか疑問
4ビリオド負けているチームは追いつくべくオールコートのディフェンスをする。ダブルチームがゾーンブレスに見えることがある。旗を掲げにくい
2-2-1の形になることをゾーンブレスだと捉えてしまう指導者が多い
マンツーマンブレスの判断の難しさ
2線の位置取りをどこまで認めるか
オールコート

2016-12-2マンツーマン推進実態調査課題まとめ



マンツーマン ディフェンス モニタリング



マンツーマンかゾーンディフェンスか？



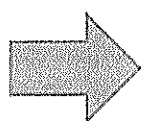
- ゾーンディフェンスの定義：
- ディフェンスの戦術として、各選手がコート上の決められたエリアをカバーする、相手チームの決まった選手を守る戦術とは異なる
- 罰する前に：
- チームがゾーンディフェンスをしていると、はっきりわかり、繰り返し実施されるサイン（兆候）

課題と役割

コミッショナー

- “フェアプレー”のチェックルール遵守 / 不正行為を許さない
- チームの戦術には関与しない
- 選手の技術不足を罰しない
- ゲームに対する良いセンスが必要
- マンツーマンディフェンス基準を誤って違反してしまった選手を、積極的に探すことが目的ではない
- チームがゾーンディフェンスを意図的に実施していないのであれば、ゲーム中に存在がわからないこと

- ・ バスケットのカット
- ・ ドライブ&キックプレー
- ・ ポジションチェンジ



弱いオフェンスからは情報が出ない！